

平成31年2月28日発行

第100号

発行 宮古北高等学校PTA
印刷 (株)文化印刷



宮北

P T A 会報

※昭和54年7月発行のPTA会報第2号のロゴを復刻しました



(上段左から)

昭和58年・野球応援(第8号) / 平成3年・PTA研修旅行 天台寺 瀬戸内寂聴さんの法話(第31号) / 平成8年・学校環境美化活動 植込み作業(第45号)

(中段左から)

平成11年・創立50周年記念宮北祭 テーマ「Advance～躍進」牛乳パックを使った全校作品(第55号) / 平成13年・宮北祭 もちつき(第61号) / 平成21年・宮北祭 PTA バザー(第82号)

(下段左から)

平成23年・オリンピア 豚汁の調理中(第87号) / 平成25年・不来方高等学校文化祭「翔鶴祭」宮北よさこいソーラン 法被を初披露(第91号) / 平成30年・田老地区福祉演芸大会



これからも

PTA会長 平内 美代子

平成もあとわずかです。皆様は平成の三十年間、どのような人生を歩んできたでしょうか。私にとって、昭和から平成に変わったのはついこの間だったような気がしますが、もう三十年も経ったのです。時の早さを感じてしまいます。

さて、PTA会報は昭和53年の第1号発行から四十年余りの時を経て、今回、第100号となります。100号を迎えることができたのも、歴代の役員の皆様、先生方のおかげです。心より感謝申し上げます。

私はこの三年間、役員の皆様を支えられながら、副会長一年、会長を二年務めさせていただきました。この間、様々な活動をして参りました。小・中学校の行事に保護者が参加することはあまり珍しくはありませんが、宮北では、高校でありながら保護者が行事に参加することに始めたいへん驚きました。オリンピックでは、保護者が朝から集まり、約百人分の豚汁を作りました。大きな鍋を三つ以上使い、家庭では想像もつかない数の大根や白菜を目の当たりにした時は、お昼までに調理が間に合うのかと不安でした。しかしながら、お母さん方の手際の良さやコンビニーションで、豚汁はあつという間に出来上がりました。午後は、私達も高校生を相手に、バドミントンや卓球の試合に参加することができました。日頃、運動をすることがない私は、とてもいい汗をかきました。オリンピックがきっかけで、生徒との仲が少しですが深めら

れたような気がします。

宮北祭では、バザーで販売する野菜を調達するため、盛岡のてんぐの里まで行くこともありました。大変なように思えますが、役員さん数人で一緒に見てまわるので、これもまた日頃のストレス解消にもなり、とても楽しく調達巡りをしました。当日は、バザー担当と食堂担当に分かれ、生徒とも協力して盛り上げ、無事に終わることができました。保護者、生徒、職員が一丸となり、地域の方々の協力も得て行事を成し遂げるのも、宮北高校ならではの思いです。

少子化と言われてついぶん年月が経つように思いますが、これからは少子化が進むでしょう。そんな中、ひとりでも多くの保護者の協力がたいへん有難いです。これからも、宮北高校のために、保護者の皆様、先生方にはPTA活動への御協力、御支援をどうぞよろしく願います。



宮北祭
吹奏楽部と宮古吹奏楽団の合同演奏

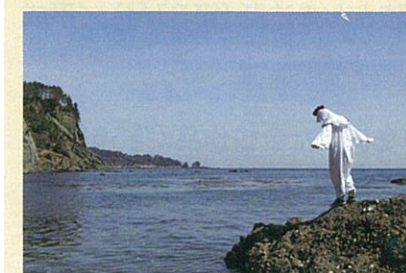


宮北祭 もちまき

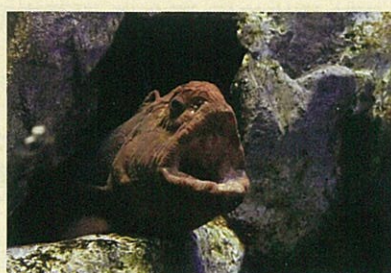
平成30年度 宮北PTA 活動報告

- 4月7日(土) 入学式・PTA入会式
- 4月17日(火) 第一回PTA役員会(本校北星館)
※事業計画について
- 5月10日(木) PTA総会(本校)
- 5月18日(金) 高P連沿岸ブロック協議会(岩泉)
※事務局長出席
- 6月6日(水) 県高P連定期総会(盛岡)
※校長・事務局長出席
- 6月7日(木) 三学年PTA(本校)
二学年PTA(本校)
- 6月28日(木) 第二回PTA役員会(本校北星館)
※オリンピアについて
- 9月6日(木) 卓球・バドミントン・
バレーボール競技に参加
- 9月14日(金) 第三回PTA役員会(本校北星館)
※宮北祭について
- 9月29日(土) PTA会報第99号発行
宮北祭
※食堂・バザーの運営
調理や物品の提供に多数ご協力
頂きました
- 10月3日(水) 登校時一声運動・マナーアップ運動
二学年PTA(本校北星館)
※修学旅行について
- 10月30日(火) 一学年PTA(本校北星館)
※来年度のコース選択について
PTA事務局長研修会(盛岡)
※事務局長出席
- 11月8日(木) 第四回PTA役員会(海舟)
卒業式
- 11月9日(金)
- 2月22日(金)
- 3月1日(金)

写真部作品集①
県高文連写真専門部
夏季写真コンテスト



佳作「苦手克服」三年 小向拓夢



佳作「岩場の番人」三年 平内樹



入選「揺れる心」三年 佐々木詩菜



AI時代がやってきた

校長 熊谷和浩

この度、PTA会報は記念すべき100号を迎えました。改めて、歴代の会員の皆様の本校に対するご支援、ご協力に感謝申し上げます。

さて、「平成」も本年4月末日をもって30年余の歴史を閉じ、新たな時代が開かれることとなりました。政府は昨年、未来社会の姿を「Society5.0」という言葉で表し、文部科学省もそれに対応した人材育成のあり方について検討した結果を発表しています。

Society5.0とは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く「超スマート社会」を示すものです。その社会では、様々なモノがインターネットにつながるIoTと呼ばれる仕組みやビッグデータの活用、AI（人工知能）の進歩により、産業や社会生活が劇的に変化することが予想されています。

特にAIについては、自動運転車の開発や囲碁・将棋での人間の敗退など、頻繁にメディアに登場するようになりました。ディープラーニング（深層学習）という機械学習の用語も広まり、AI自らがどんどん知能を発達させ、人間の仕事を奪ってしまうのではないかと心配する声も聞かれています。

確かに、定型的な業務や数値的に表現可能な知的業務はAIの得意とするところであり、今後AIに代替させることで人間の負担を軽減する方向にむかうことでしょうか。しかし、いたずらにその脅威を言い立て、新しい社会に対する危機感をあおることは避けなければなりません。冷静に

その実態を捉え、AIと共生する社会の構築のために教育はどうあるべきか考える必要があると思います。

AIはコンピュータであり、それは計算をする機械です。与えた大量のデータの処理は得意ですが、人間の知的活動の全てを数式で表現することは現在できていません。それでは、人間にしかできないことは何か。

AIは情報処理には長けていますが、情報のもつ「意味」を理解しているわけではありません。文章を読んで論理的思考を行うための読解力や、他者と協働しながら思考・判断・表現していく対話力など、現実世界の背景を理解し、様々な人、モノ、情報の間にある複雑な関係を調整していくことは、人間だけが担うことができる能力です。

本校では、「共創力を発揮する」のメインテーマのもと、今年度の教育活動を行って参りました。「フォトコン遠足」においては、岩泉観光協会の方から東日本大震災による町並みの変化についてお聞きしました。「避難所開設訓練」では、宮古市の危機管理課の方から震災時の本校の様子についてリアルティあるお話しをいただきました。

学校内外の資源を活用しながら個々の能力を高め、地域交流の中から学んだ知見を交流して共に新たな創造活動につなげていく。

AIに代替できない「共創力」を身に着け、来たるべきSociety5.0の社会に適応する力を付けることが、これからも本校の進むべき道だと考えています。

特別寄稿1

百聞は一見に如かず

第21代会長（平成26～27年度） 金子誠博

日本には百にまつわる「ことわざ」や「格言」「四字熟語」がたくさんありますが、「百聞は一見に如かず」このことわざは皆様ご存知かと思われます。たくさん聞くよりも、実際に見るほうが良いという意味ですね。ただこのことわざには続きがある事をご存知でしょうか？「百聞は一見に如かず・百見は一考に如かず・百考は一行に如かず・百行は一果に如かず」見るだけでなく、考えなければ意味がない、考えるだけでなく行動するべき、行動するだけでなく成果を出さないと意味がない。つまり、聞いて・見て・考え・行動し・最後に成果をだす、という事の様です。人は聞いただけで分かったような気になる、見ただけで出来そうな気になる、考えるだけでやった気になる、行動しただけで満足して結果が出ていない、こういったことをやってしまいがちなので、どんなことでも「どんな成果を出したいか」これを意識しているだけでもかなり行動が変わると思います。宮北では、ぜひ「百聞は一見に如かず」の続きの出来る生徒を育てて行って欲しいと思います。最後になりましたが、PTA会報100号おめでとうございます！



平成27年10月 宮北祭
盛岡第四高等学校音楽部の皆さんの合唱

写真部作品集② 県高等学校総合文化祭 写真部門



入選「時を止める少女」三年 郡司萌



入選「桜空」三年 佐々木詩菜



優良賞「こっちみんニャ。」二年 加倉巧也

特別寄稿2

平成から新たな時代へ

第18代会長(平成22〜23年度) 澤 口 義 明

今回宮北PTA会報が一〇〇号の発行になりこの節目の時、そして平成最後の年に三年生の方々は卒業されます。この校舎で三年間学び新たな時代の元年に社会人に進学へと歩んで行く事になりますが、先日私が仕事で宮北の体育館に工事に伺った時に挨拶したならば、元氣良く返事が返って来て宜しく願いますとその場所に居た数名の生徒に言われまして気持ち良く仕事をしました。礼儀正しい生徒に育ててくださった先生の方々に感謝しますし礼儀正しい生徒達であれば社会に出て大丈夫であると思えました。三年生の皆さん自信と夢を持ってこれからの人生を歩んで下さい。

四月になりますと平成最後の入学式が執り行われ五月には新しい年号がスタートしますし十月には宮古北高七十周年記念行事が予定されているようにございます。

平成を振り返って見ますと平成元年夏の大会で宮北野球部が県大会で見事優勝と輝かしい成績を収め宮北の歴史の一ページを作ったと思えます。あれから三十年が過ぎて新しい元年になりますので今年あたり宮北の歴史に残る一ページが作れると良いと思います。

それから約八年前になります平成二十三年三月十一日東日本大震災

では未曾有の災害になり生徒とその母親が犠牲になられました。あらためてご冥福をお祈りします。震災時には宮北は被災された方々の避難所になりました。その時の校長先生をはじめ教職員の方々は大変な苦勞をされたと思います。宮北が現在の場所にあつたからこそ被災者の方々は助かったと思います。私はその時のPTA会長でしたけれども消防団活動に三月二十七日まで専念せざるを得なくて宮北への協力が出来なかつた事を残念に思っていました。例年であれば入学式は四月八日頃ですが震災の年は四月二十八日でした。私の入学式での挨拶も祝辞ではなく『激励の言葉』の題名で挨拶しました。

今年三月二十三日には三陸鉄道が久慈から大船渡の盛駅までつながり生徒の方々にも大変嬉しい事と思えます。この沿岸の高校の中で宮北は小規模で家族的な高校ですが『他校には無い宮北だけのすばらしさを持っている高校』であると思っています。

この地域を防災面から見ます時に、地球全体が温暖化により異常気象になり、この地域も想定外の災害になる可能性も考えられますので宮北は避難場所の指定にされています。

この地域には必要な学校であると思っておりますのでこれからも宮北の存続を切に願っています。



(上段左から)

平成23年4月28日 大震災から1か月半 入学式を挙行／平成23年10月 宮北祭 早稲田大学応援部の皆さんと宮北応援団の合同ステージ／平成25年1月 平館高等学校とのスキー交流会

(下段左から)

平成26年8月 青山学院高等部との交流会 今年度も8月に行われた／平成27年8月 沖縄県八重山高等学校郷土芸能部との交流会(2枚)

『遠天高く北の星』

副校長 佐々木 伸 良

① 大切なこと：進学／就職の先を見ること

(1) 高学歴と少子化により、2人に1人は大学進学時代、大学進学は特別なことではない。どの大学でも良いとは限らない。大学等に進学を希望する場合、パンフレットやホームページだけでなく、実際にキャンパスを訪ねたり、説明会に参加し、担当者と話し合うことが保護者と生徒にとって必要である。

(2) 就職の場合、企業はコミュニケーション能力、問題解決能力、忍耐力、柔軟性そして将来への目標(夢)があるかを重視している。日頃から親子の話題に取り入れると良いでしょう。

(3) 若者の離職理由は仕事と合わないとか職場の人間関係である。同僚は高校時代の友人とは違う。壁にぶつかるのは当たり前、そのとき問題解決能力が問われる。保護者の経験を話しましょう。

② 人事担当者の話

(1) さまざまな資格取得に挑戦し、未来の自分を磨く人材が欲しい。会社に入ると様々な資格を取得しなければならない。

(2) 会社見学の到着時間を記録。作文を時間内に仕上げられない生徒は、製品の納期を守れない。原稿用紙のマスの中に字が収まっている。消しゴムのカスの始末ができていない。漢字のトメ・ハネは守られている。このようなことを人事担当者はチェックしている。

(3) 社会人としての夢を持っている若者は、ストレスに強い。

豊かな時代は、溢れる情報を提供し、個々の生き方に多様化とグローバル化を生み出した。私たちの生活は、常に世界とつながり、その情勢の変化に対応していかなければならない。これからの時代を生き抜く子ども達は、時代の変化に対応できるしなやかさ、しぶとさ、したたかさが必要である。これらは、学校、家庭そして地域といった日常生活の中で身につけなければならない。そこで次に掲げることが子ども達とともに考えてみましょう。

(4) 仕事内容を理解し、覚悟して入社して欲しい。休日が土日とは限らない。

③ 親に言われたくなかったこと(河合塾より)

(1) 大学の知名度や評判を気にすること。

(2) 姉と比較されたこと。姉のほうが勉強したとか、姉より真剣さが足りないと言われた。

(3) 「いつになったら成績が伸びるの?」と言われた。

(4) 休憩中に「勉強したら」と言われるのが嫌だった。

(5) とにかく学費について言及されるのが辛かった。

④ 国立大学・公立大学・私立大学の初年度納付金(1年目)を知っていますか?

平成27年度(平均) (Benesse マナビジョンより)

区分	授業料	入学科	施設設備費	合計
国立大学	535,800円	282,000円	※	817,800円
公立大学	537,857円	397,721円	※	935,578円
私立大学文系	746,123円	242,579円	158,118円	1,146,819円
私立大学理系	1,048,763円	262,436円	190,034円	1,501,233円
私立大学医歯系	2,737,037円	1,038,128円	831,722円	4,606,887円

⑤ 国立公立大学・私立大学・専門学校にかかる費用

(リクルート キャリアガイドスより)

区分	年数	学校納付金平均額
国公立大学	4年間	2,440,000円
私立大学文系	4年間	4,170,000円
私立大学理系	4年間	5,780,000円
公立短期大学	2年間	992,853円
私立短期大学	2年間	1,994,265円
専門学校	2年間	2,290,000円

◆学校納付金には、入学金・授業料・施設設備費等が含まれる。

※見えない出費 施設費、実習費、諸会費などを更に徴収される場合もある。

奨学金を借りれば本当に大丈夫か。人口は奨学金。聞こえはいいが、借金。大学予約奨学金申込は3年生の5月。奨学金の受け取りは入学後、入学金等はあらかじめ用意。推薦入試の支払いはもつと早い。教育ローンは保護者の支払い。奨学金は、子どもの支払い。

⑥ 親が知っておくべき進学に関係する費用

(1) できることとできないことを伝える。子どもにも家計の状況を知ってもらおうことが必要。

(2) 必要なのは、受験料、旅費、入学金、授業料だけではありません。教科書代、アパート代、電化製品、パソコン、ミールクーポン：説明会で詳しく聞きましょう。

⑦ 私が親として思うこと

(1) 受験生の生活↓集中と転換が力ギ

(2) 学校と家庭の自学自習力、いっどこで継続的にできるか：なかなか独りではできない。

(3) 携帯電話の使用ルールの確認。

汗をかくことも大切。気分転換は必要。特に運動部の場合は、絶対必要。

(1) 昔と大学は違う。偏差値や就職率、あるいは知名度で判断しない。

(2) 何を学びたいか?どんな教授の下で学びたいか?情報収集が必要。

(3) 何になりたいかがあるかないかで大きく変わる。

(4) 親離れ子離れの時期我慢が必要。

(5) 保護者は自立支援者へ

(6) 「こんなにしてあげたのに」「・・のに」は禁句。さりげない支援を心がけましょう。

(7) 受験回避、「浪人してもいいから、落ちたら働け、だめなら専門学校。」絶対禁句。

(8) 試験まで、健康第一。

(9) やはり頼りになるのは先生、何でも相談できる関係になりましょう。

⑧ 宮古・下閉伊地区の3年生570人実態調査

(1) 就職のことで誰の意見を参考にしましたか

先生 28% 親 49% 先輩 7% 自分 16%

(2) 進路希望

大学 32% 短大 8% 専門学校 24% 就職 36%

(3) 就職希望

どこに就職したいか

管内 50% 管外 14% 県外 36%

↓地元志向。

◎子どもは保護者を頼りにしているので三位一体で頑張りましょう。

平成30年度 部活動報告

卓球部

岩手県高等学校総合体育大会出場
男子団体・女子シングルス
(6月・奥州市)

宮古市民体育大会
女子ダブルス 第3位 (8月)

岩手県高等学校新人大会出場
男子団体・女子シングルス
(10月・一関市)



バドミントン部

岩手県高等学校総合体育大会出場
男子ダブルス (6月・花巻市)

宮古市民体育大会出場 (8月)

岩手県高等学校新人大会出場
男子シングルス・女子ダブルス
(11月・奥州市)



スポーツ・レクリエーション部



フットサル部

社会人フットサル大会に2回出場 (5月・7月)



吹奏楽部

- 四月 入学式 本校第一体育館
- 七月 全日本吹奏楽コンクール岩手県大会
予選沿岸地区大会(宮古市民文化会館)
高等学校小編成の部 銅賞
田老地区復興イベント「大好きふるさと!みんなの田老」(道の駅たるう)
- 九月 宮北祭 本校第一体育館
(宮古吹奏楽団との合同演奏)
- 十月 田老地区体育大会 (田老第一中学校との合同演奏)
- 十一月 宮古市民文化祭吹奏楽演奏会
(宮古市民文化会館)
- 十二月 全日本アンサンブルコンテスト岩手県大会
予選宮古支部大会(宮古市民文化会館)
高等学校の部 管楽四重奏 銅賞
- 三月 卒業式 本校第一体育館

写真部



六月 岩手日報社高校生フォトコンテスト五席 中村 梨夢(三年) 岩手県高等学校文化連盟写真専門部 夏季写真コンテスト
 入選 佐々木詩菜(三年) 佳作 平内 樹(三年) 小向 拓夢(三年)

九月 岩手県高等学校総合文化祭写真部門
 優良賞 加倉 巧也(二年) 入選 佐々木詩菜(三年) 郡司 萌(三年) 宮北祭写真展

十二月 宮古・下閉伊高校芸術展

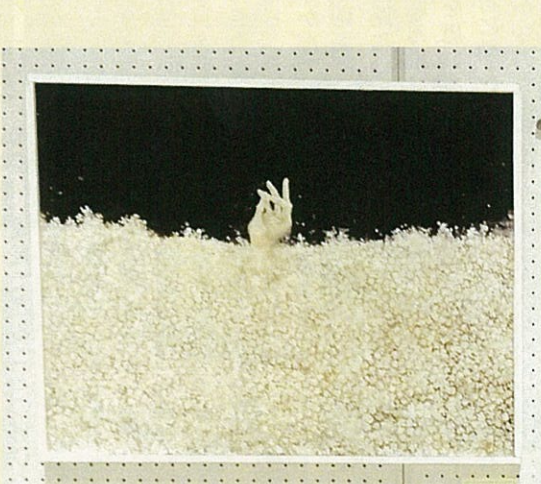
茶華道部



四月 入学式 御来賓を抹茶で接待
 七月 中学生一日体験入学 茶道体験
 九月 宮北祭お茶会

十二月 宮古・下閉伊高校芸術展

美術部



九月 宮北祭展示
 十一月 岩手県高等学校総合文化祭美術工芸展 絵画部門
 入選 佐々木美波(二年) 常川 充鈴(二年)

十二月 宮古・下閉伊高校芸術展

「水中。」 二年 常川充鈴

「POPCORN」 二年 佐々木美波

手芸部



九月 宮北祭 展示・販売

その他

岩手県高等学校生徒会誌コンクール 佳作 宮古北高等学校「北の星」



「閃光」

三年A組担任 熊谷沙織

2017年の春、私はいまの3年A組の生徒達に出会った。目の前にあることを片付けていくうちにあつという間に2年が過ぎて、17名の生徒達はもうすぐ卒業の日を迎える。

この2年間はもろろん楽しいことばかりではなく、悲しいことも腹が立つこともあった。しかし同時に、うれしい気持ちになったり、「もっと頑張ろう」と思わせてくれるのも、やはり生徒達だった。生徒がいるから、「先生」であり続けられる、そう思った。

たとえば2年生の修学旅行。悪戦苦闘しながらも京都での自主研修を楽しみ、無事に宿に戻ってきたときの皆の表情を今でも覚えている。充実感、達成感のようなものが浮かんでいて、なんだかとも頼もしく見えた。

3年生になって、進路について考える時間が増えた。選んだ道はそれぞれ違って、お互いを思いやりながら試験勉強や面接練習に励んでいた。一人ひとりが、これからの人生に向かって踏み出そうとしている、そんな風に見えた。

人生100年時代と言われる現代において、高校での3年間でどれほどの意味を持つのかはわからない。これからの人生の長さを考えれば、きつと一瞬の閃光のようなものでしかないだろう。それでもその「一瞬」に一喜一憂し、自分自身と向き合い、悩みながらも前に進み続けた経験は何にも代えがたいものであると思う。

だから自信を持って次の一步を踏み出してほしい。そして自分の人生を精一杯に生きてほしい。

この2年間、クラスの生徒、先生方、保護者の皆さまに支えられてなんとか走り切ることができました。人生でたった一度しかない高校生活に関われること、そして生徒達とともに成長できることの喜びを感じました。保護者の方々には、自分の至らなさ故にご迷惑、ご心配をおかけしたこともあるかと思えます。それでも生徒や学校の良き理解者かつサポーターであり続けてくださったこと、本当に感謝しております。ありがとうございました。



編集

後記

「新設校は伝統が無く頼るものがないが、自分達の思っていることを抑えるものはない。『無からの創造』これ以上の楽しみはない。」

昭和54年、岩手県民会館館長（当時）の塩山清之助先生が本校で講演された時のおことばです。田老分校から独立し、宮古北高等学校として新たにスタートした時期でした。

「夢に向かって前進」

平成11年、創立50周年記念講演会で元マラソン選手の永田（佐々木）七恵さんは、「今を大切にしてほしい。来たるべき21世紀を輝かしいものにするため、思いっきりいい汗を！」と話されていました。

おかげさまで、ここに、節目の第100号となる会報を発行できました。これから、110号、150号、200号と、宮北の新たな歴史を積み上げる所存です。今後ともよろしく願いいたします。

最後になりましたが、今回、特別寄稿して下さった歴代会長の澤口さん、金子さんに厚く御礼申し上げます。